

被爆65年—核兵器のない世界へ行動を

希望ひらく原水爆禁止2010年世界大会

「生きているうちに核兵器廃絶を」—被爆者の願い

今から65年前の1945年8月6日広島、9日長崎に、アメリカは人類史上初の核兵器を使用しました。瞬時に熱線、爆風、放射線が人びとを襲い、二つの街は壊滅しました。その年だけで広島で約14万人、長崎で約7万人の命が奪われました。さらに放射能の後障害で、原爆は今も多くの被爆者の命を奪い続けています。ヒロシマ・ナガサキの被害は決して過去のものではありません。

いま全国に約23万人いる被爆者の平均年齢は76歳を超えました。原爆による苦しみを誰にも味わってほしくない—この思いから被爆者は核兵器廃絶を訴え続けています。

地平線の先に、核兵器のない世界が見えている

ことし5月、ニューヨークの国連本部で開かれた核不拡散条約（NPT）再検討会議では、会議の議長が日本で集められた691万人分の「核兵器のない世界を」国際署名を受理し、会議の初日にすべての参加国（190カ国）に、市民社会の声に応えるようよびかけました。

会議は核保有5カ国を含め、一致して「核兵器のない世界の平和と安全を達成する」ことを決め、核保有国に「自国の核軍備の完全廃絶」の「明確な約束」を実行させることを確認しました。被爆者とともに草の根の行動が世界を動かしています。

潘基文（パンギムン）国連事務総長は、「地平線の先に、核兵器のない世界が見えています。それを実現しよう」と活動する人びとが見えています。どうか行動し続けてください」と私たちに熱いメッセージを寄せています。

歴史の次のページを開こう

8月2日から9日まで、原水爆禁止2010年世界大会が被爆地広島・長崎で開かれます。世界大会には、国連代表をはじめ、核兵器廃絶の先頭に立つエジプト、マレーシア、メキシコ、キューバなど非核国政府の代表、5月のNPT・ニューヨーク行動の中心となったアメリカ、ヨーロッパの反核平和団体、中国、韓国などアジアの平和団体の代表、広島・長崎両市長と日本各地の代表が一堂につどいます。

大会は「核兵器のない平和で公正な世界」をテーマに、核兵器のない世界への次のステップについて話し合われます。また、核兵器廃絶の最大の障害となっている「核抑止力」「核の傘」の問題が議論されます。青年たちは被爆者訪問を計画しています。

主人公は、全国の地域・職場・学園からの草の根の代表です。あなたの街から世界大会へ代表を送りましょう。



原水爆禁止日本協議会

〒113-8464 東京都文京区湯島2-4-4
TEL.03-5842-6031 FAX.03-5842-6033
<http://www.antiatom.org/>